



ユーザーガイド

ADATA® SSD Toolbox

(バージョン5.0)

改訂履歴

日付	改訂	説明
2014/1/28	1.0	初版
2021/2/1	2.0	UI再設計
2022/8/31	3.0	<ul style="list-style-type: none">新機能を追加 (ベンチマーク/CloneDrive)新しいOSサポートを追加新しいUIバージョンに合わせて一部のコピーを調整
2023/12/07	4.0	<ul style="list-style-type: none">CloneDriveを削除
2024/07/10	5.0	<ul style="list-style-type: none">新機能を追加 (CloneDrive)



目次

概要	2
始めに	2
システム要件	2
SSDツールボックスを起動する	3
ドライブ情報画面	3
更新ボタン	4
ドライブを選択	4
ドライブダッシュボード	4
S.M.A.R.T.ボタン	4
ドライブ詳細ボタン	5
診断スキャン	5
クイック診断	5
フル診断	6
ユーティリティ	6
セキュリティ消去	7
ファームウェア更新	8
ツールボックスのアップグレード	9
ログのエクスポート	10
システムの最適化	11
SSDの最適化	11
OSの最適化	11
システム情報	12
ベンチマーク	12
ドライブのクローン	14
Step1. ソースドライブを選択(Disk1)	15
Step2. ターゲット先ドライブを選択(Disk0)	15
Step3. 確認	16
Step4. クローン化	16
Q&A	17



概要

始めに

ADATA SSDツールボックスは、ディスク情報を取得したり、ディスクの設定を変更できる使いやすいGUIです。SSDのパフォーマンスや耐久性を向上させることもできます。

ご注意

- **ADATA**ツールボックスは、**ADATA SSD**製品の専用ツールです。
- ファームウェアのアップデートや**SSD**の消去を行う前には、データをバックアップしてください。
- 状況によっては、ドライブが検出されない場合があります。例えば、**BIOS**セットアップで「ホットプラグが無効になっている場合」などです。
- ドライブが**ADATA**製品でない場合、一部の機能はサポートされません。

システム要件

- Windows 7/ 8.1/ 10/ 11 のオペレーティングシステムをサポートします。
- 本プログラムを実行するには、最低**10MB**の空き容量が必要です。



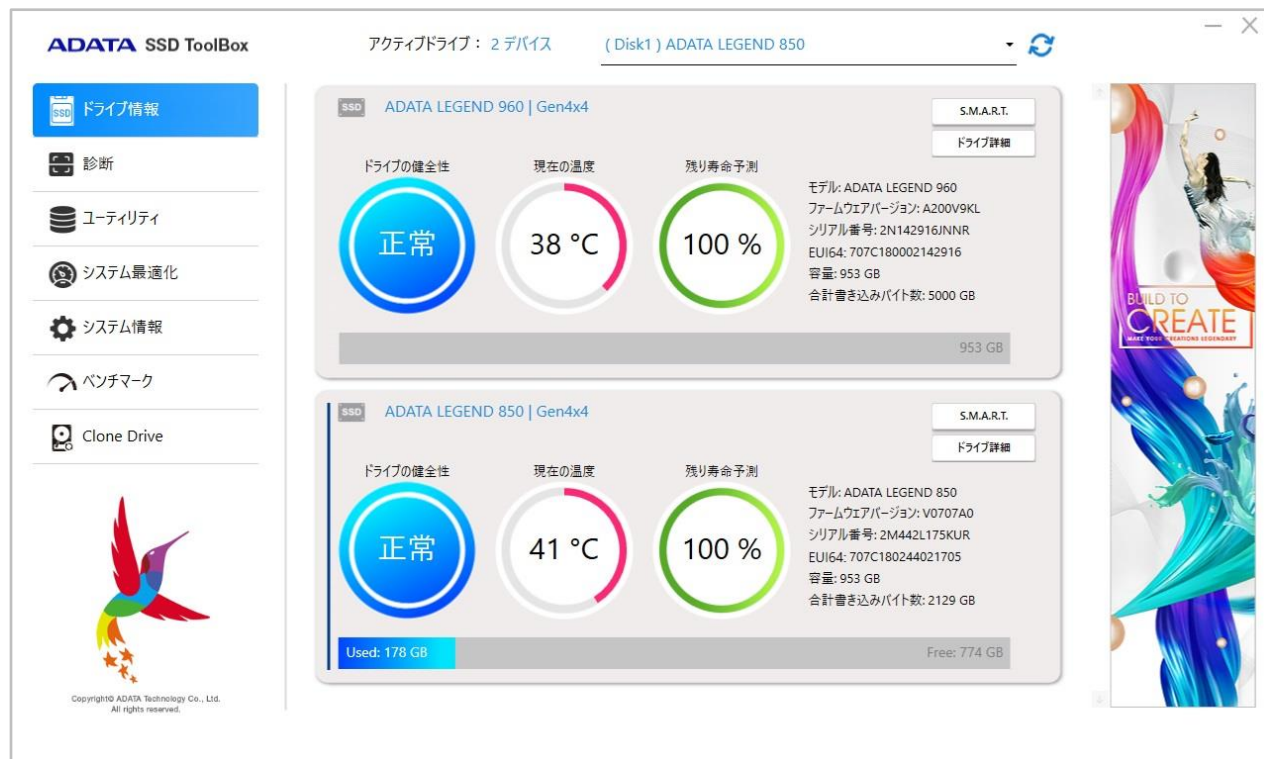
SSDツールボックスを起動する

ADATA SSDツールボックスは、ADATAの公式ホームページからダウンロードできます。ファイルを解凍し、「SSDTool.exe」をダブルクリックして起動します。

すべての機能は、ドライブ情報、診断スキャン、ユーティリティ、システム最適化、システム情報、ベンチマークの6つのサブ画面に分類されています。ADATA SSD Toolboxを起動すると、メイン画面にドライブ情報画面が自動的に表示されます。

ドライブ情報画面

この画面では、選択したドライブの詳細情報を確認できます。





更新ボタン

外付けハードドライブが接続されている場合、ドロップダウンメニューを更新するには、[更新]ボタンをクリックする必要があります。

ドライブを選択

ドロップダウンリストから任意のSSDを選択します。選択に応じてドライブダッシュボードが表示されます。また、右側のスクロールバーを使用することで、インストールされているすべてのドライブのダッシュボードの間を移動することができます。

ドライブダッシュボード

ドライブダッシュボードには、ドライブの健全性、温度、残りの寿命、モデル、ファームウェアバージョン、シリアル番号、容量、およびTBW*などの情報が表示されます。(モジュールの中は、TBW (書き込まれた合計バイト数) 機能をサポートしていないものもあります。)

覧の左側にある青いバーは、現在選択されているドライブを示しています。

*TBW: 書き込まれた合計バイト数

S.M.A.R.T.ボタン

「S.M.A.R.T.」ボタンをクリックするとS.M.A.R.T.テーブルが表示され、選択したドライブの自己監視、分析、および報告技術の属性を確認できます。SSDブランドによっては、すべてのS.M.A.R.T. 属性がサポートされていない場合があります。



ドライブ詳細ボタン

「ドライブ詳細」ボタンをクリックすると、ドライブに関する詳細な技術情報を確認することができます。他のADATA製品を使用すると、他の値が表示されます。

診断スキャン

現時点では、オンボードSSDのみに対応しています。2つの診断スキャンオプションから選べます。



クイック診断

このオプションでは、選択したドライブの空き容量に対して基本的なテスト



トを実施します。数分ほどかかります。

フル診断

このオプションでは、選択したドライブのすべての使用済み領域に対して読み取りテストを実行し、選択したドライブのすべての空き領域に対して書き込みテストを実施します。

ユーティリティ

ユーティリティ画面には、セキュリティ消去、ファームウェア更新、ツールボックスのアップグレード、ログのエクスポートなど、複数のサービスが表示されます。





セキュリティ消去

セキュリティ消去機能は、選択したSSD上のすべてのデータを永久消去し、データが復元されないようにします。この機能はブート時には実行できません。

ADATA SSDがセキュリティロックされている場合にセキュリティ消去のロックを解除する場合は、サードパーティツールを使用してロックを解除してください。

ロック解除用のパスワード：**ADATA**

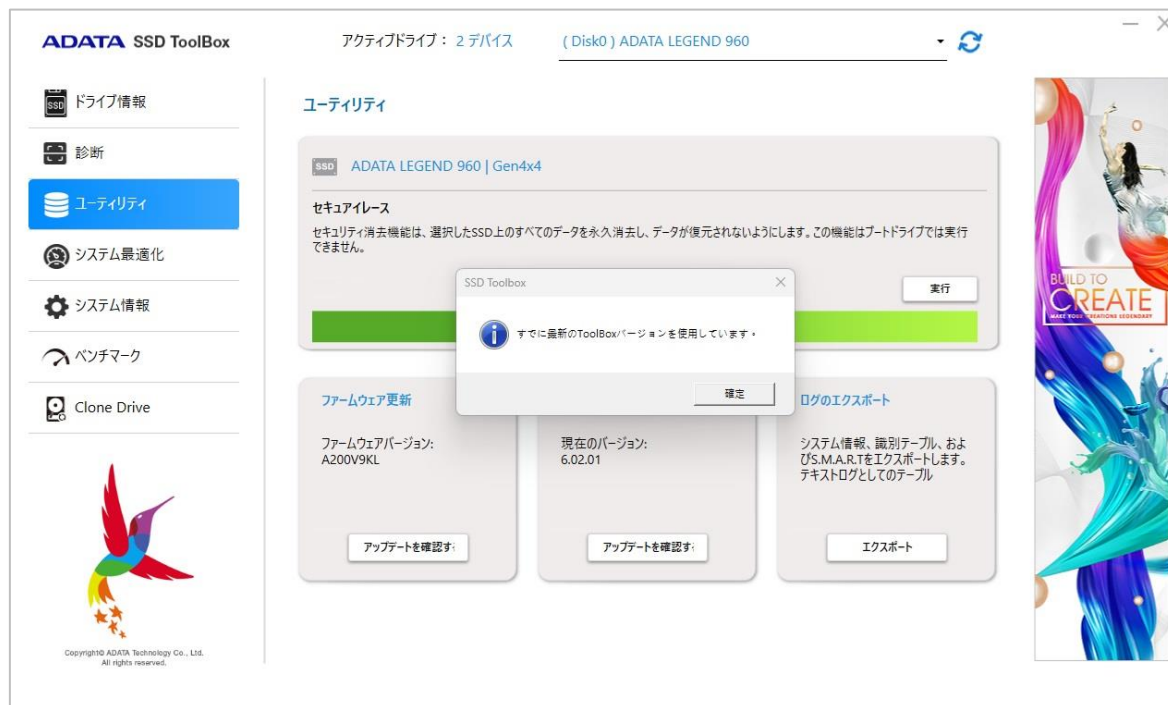
ご注意

- 「セキュリティ消去」を実行する前に、すべてのパーティションを削除してください。
- セキュリティ消去の実行中は、SSDを取り外さないでください。取り外した場合、SSDがセキュリティロック状態になります。
- この操作を行うと、ドライブ上のすべてのデータが削除され、ドライブが工場出荷時の状態に復元されます。
- 「セキュリティ消去」を実行すると、ドライブの寿命が短くなります。この機能は必要な場合にのみ使用してください。



ファームウェア更新

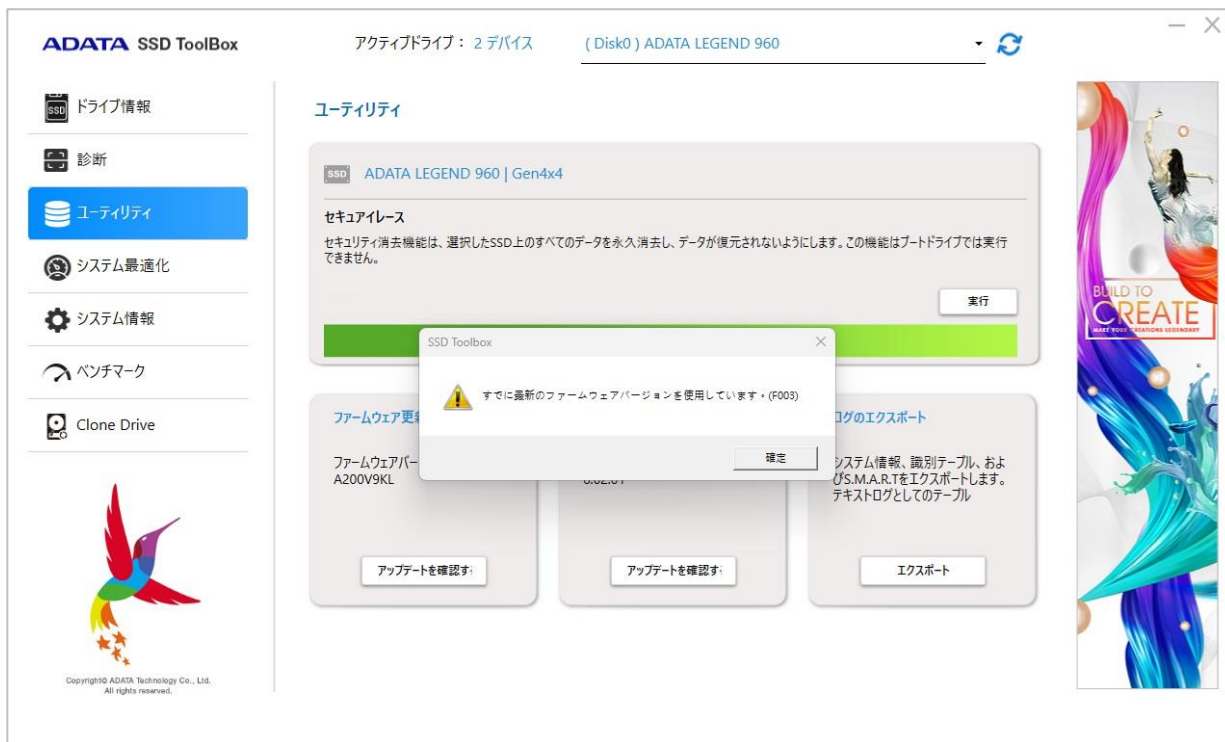
該当するSSDファームウェアのダウンロードページに直接リンクされており、最新のFWバージョンをダウンロードすることができます。





ツールボックスのアップグレード

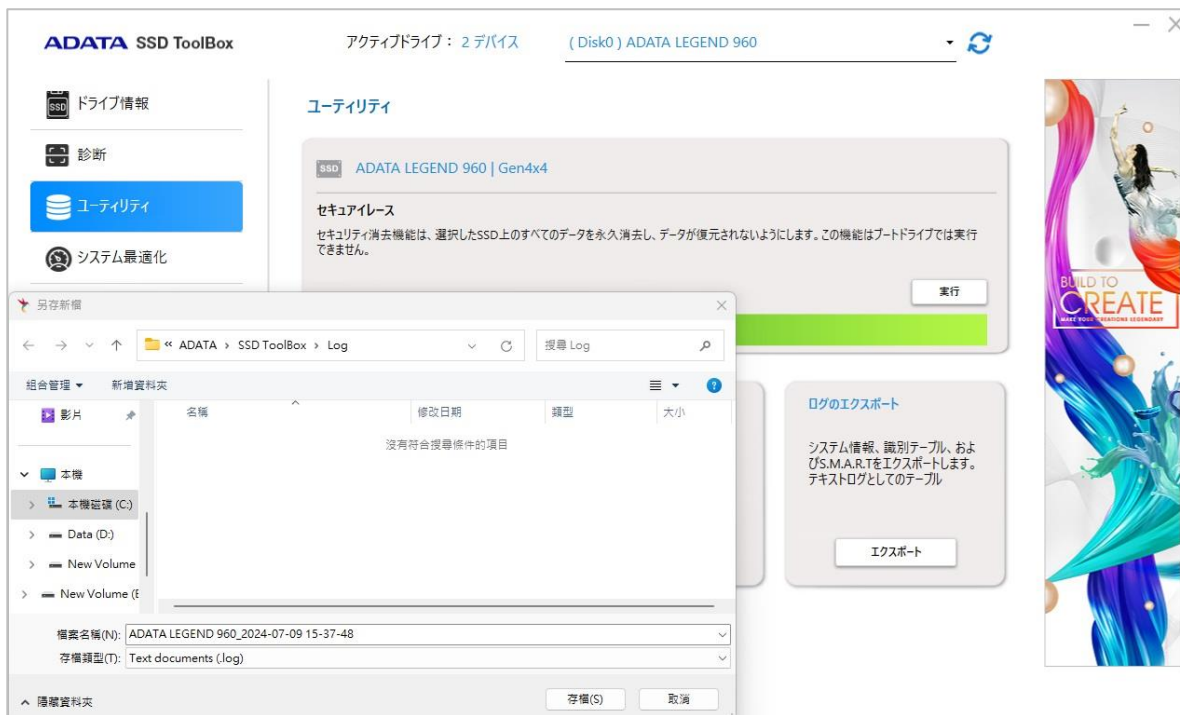
CHECK UPDATE (アップデートの確認) ボタンをクリックすると、本ソフトウェアの最新バージョンがダウンロードされます。





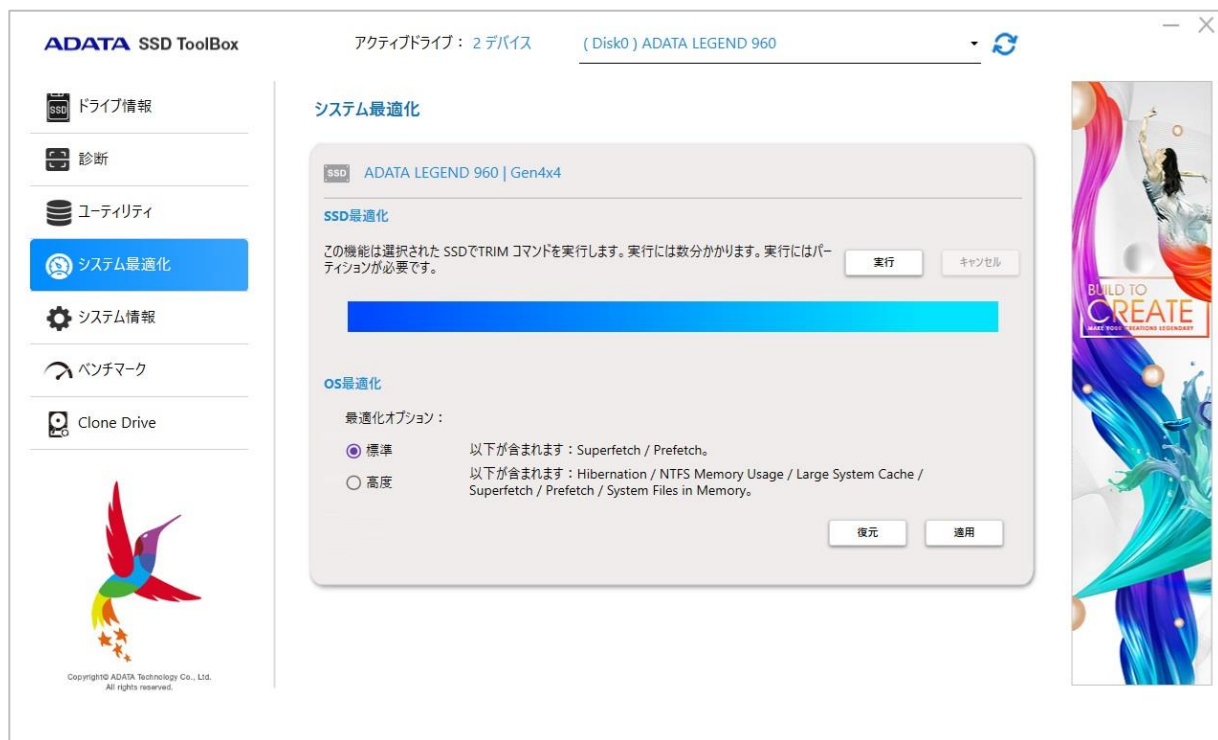
ログのエクスポート

エクスポートボタンをクリックすると、システム情報、識別テーブル、およびS.M.A.R.Tがダウンロードされます。テキストログとしてのテーブル



システムの最適化

選択したSSDを最適化する方法には2つあります。SSDの最適化とOSの最適化です。



SSDの最適化

SSDの最適化では、選択したドライブの空き領域に対するトリムサービスを提供します。

*SSDの最適化は週に1度実行することをお勧めします。

OSの最適化

スタンダードー 基本的なOS最適化に向けて、スーパーフェッチ、プリフェッチ、自動デフラグなどの一部の設定が変更されます。

アドバンスドー - 高度なOSに最適化に向けて、ハイバネーション、NTFSメ



メモリ使用量、大規模システムキャッシュ、スーパーフェッチ、プリフェッチ、メモリ内のシステムファイルなどの一部の設定が変更されます。

システム情報

現在のシステム情報、公式ヘルプへのリンク、ユーザーマニュアルのダウンロード (SSDツールボックス)、SSD製品の登録が表示されます。



ベンチマーク

ベンチマーク機能を使用すると、ADATA製SSDに読み込みおよび書き込みテストを実施することができます。右にあるStart (開始) ボタンを押して、テストが完了するまで数秒間待機します。



1. テストするドライブを選択します
2. テストの回数。
3. テストを開始します
4. 進捗状況が表示されます
5. SSDに実施した性能テストの結果

ご注意

- テスト結果は参考値です。
- 性能は、使用するマザーボード、CPU、M.2スロットによって異なる場合があります。
- SSDの速度は、公式記載されているソフトウェアとプラットフォームを使用して実施されたテストに基づくものです。



ドライブのクローン

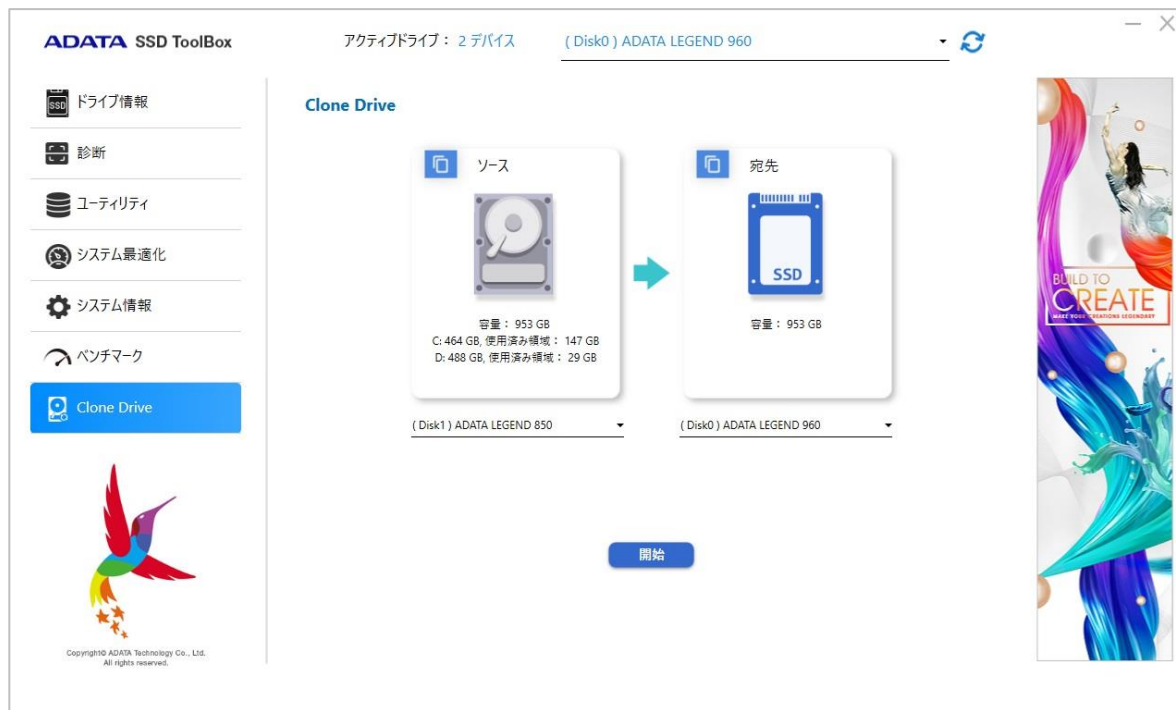
「ドライブのクローン」機能を使用することで、ローカルドライブ内の異なるパーティションにあるデータを、必要に応じて他のドライブに同期してバックアップすることができます。

ご注意

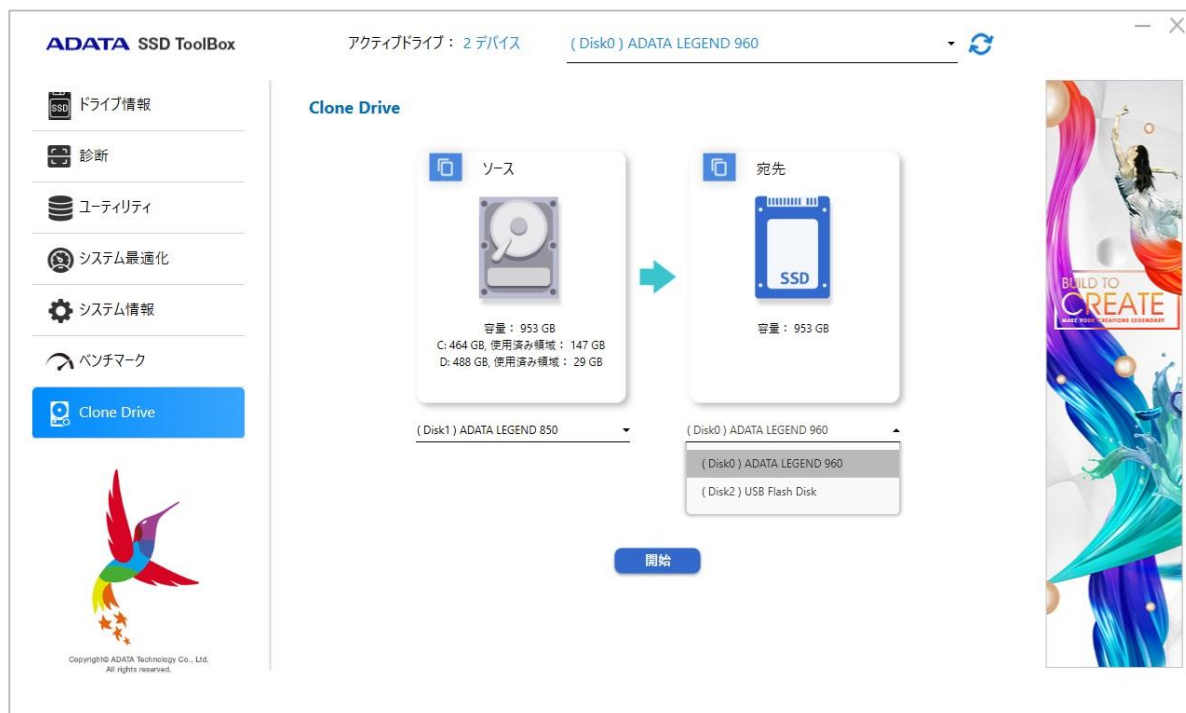
- ソース元のドライブは非ADATA製品でもかまいませんが、ターゲット先のドライブはADATA製でなければ、機能を開始できません。
- SSDにクローンすると、4Kアライメントが自動的に行われます。ディスククローニング後の転送効率に影響を与えることはありません。
- クローンの完了後、OSを再インストールすることなくスムーズに起動するためには、まずソース元のドライブを取り外してから、ターゲット先のハードディスクを接続する必要があります。
- ソース元ドライブとターゲット先ドライブを同時起動に使用することはできません。同時に起動された場合、システムが解釈できなくなります。このため、ソース元ドライブを元のホストで使用するには、まずは別のホストに移動させてブートボリュームを削除する必要があります。



Step1. ソースドライブを選択(Disk1)



Step2. ターゲット先ドライブを選択(Disk0)

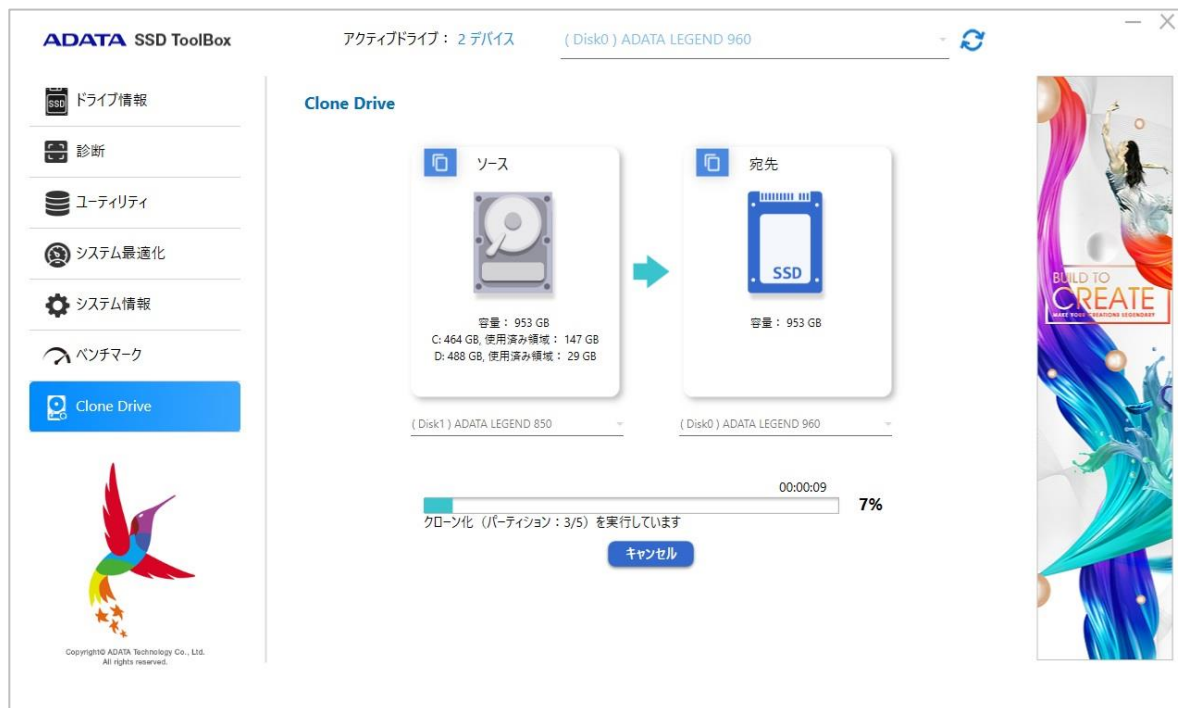




Step3. 確認



Step4. クローン化





Q&A

ツールボックスの使用中に問題が発生した場合は、当社のサービスセンター（ ）までお問い合わせください <https://www.adata.com/jp/support/>